

活動完了報告 「ベルカント唱法を伝えるために」活動助成

(黒田詩織)

《報告および成果》

2024年5月7日から5月24日までの18日間、イタリアへ滞在致しました。集中的に以下 3 名の方のレッスンを受講致しました。

Eva Mei 氏 計 3.5 回 (マエストラ体調不良の為、1.5 時間分キャンセル)

主に発声を中心に見て頂きました。様々なパターンの発声を全ての母音を用いて行い、支えのバランスを含め丁寧に確認しました。またアクト(高音)がしっくりきていなかったのも先生とディスカッションしながら進めていくと、高いド以降の音のクオリティをあげることができ、ハイエスが出るようになりました。声を出す前にどのように準備すべきか、順序立てて理解することができたので、大きな発見となりました。曲は『La Bohème』の重唱、愛の妙薬のアリアを中心に見て頂きました。経験豊富で、世界で活躍するマエストラから綺麗なイタリア語と正しい発声を組み合わせて歌う方法、また舞台上で歌う時に気をつけるべきヒントを習得することができました。

Giuliana Panza 氏 計 2 回

ベルカントの代表的な作品である『愛の妙薬』、また Verdi Simon Boccanegra より Come quest' ora bruna のアリアを見て頂きました。

主にレチタティーヴォの歌い方、早口で歌う時にどのようにしたら良いか、また主人公の性格やシーンを掘り下げて学びました。イタリア人だからこそわかる言葉のニュアンス、言い回しを知ることができて、表現の幅を大きく広げることができました。

Stefano Conticello 氏 計 2 回

『愛の妙薬』『椿姫』の作品を中心に見て頂きました。全ての音を歌いすぎる癖がありましたが、マエストロの教え通りに歌ったら格段に歌いやすくなり、音楽が前に進んでいきました。

伝統的な音楽の作り方、フレーズをどのように歌ったら良いかを作品を通して習得することができました。

《今後の課題》

これまでたくさんの技術を習得して参りました。日本では取得することのできないテクニックばかりです。

日本にいた頃は、『息が続かない』『ディクションが聞こえない』『レパートリーが合っていない』『高音が出ない』『オペラを一本歌いきることができない』などたくさんの問題点がありました。しかしベルカントのテクニックのおかげで、色々な作品を身体を使って歌うことができるようになってきました。

近年はコロナ禍も明けましたが、海外で勉強するという事は簡単なことではありません。

まだまだ私のテクニックは完全ではありませんし、これから死ぬまでいい声を求め続ける旅は続きますが、これまで経験した技術や経験を、昔の私と同じように悩んでいる方々にわかりやすく言語化し、伝えていく活動を行っていきたいと思います。

《その他》

この度『みんなの寄付』に合格させていただけたことで、イタリアに行き改めて沢山のことを学ぶことができました。さわかみ財団の皆様をはじめ、ご支援いただいた皆様に本当に心から感謝しております。今回の経験を自身の演奏の中で、また後進へ伝えていきたいと思えます。

本当にありがとうございました。